



千葉県八千代市

令和1年 8月7日

golf320yukinko@softbank.ne.jp

TEL 080-4450-7556 FAX 047-750-7506

編集責任者 上田 由起子

言葉の処方箋、今の私の場合。。

神原 智子

仕事での先輩が、5月12日の朝日新聞の天声人語に樋野先生のこと載っていると新聞を送ってくれました。私が「がん哲学外来花一輪カフェ」に参加していることをご存じだったからです。そのことがきっかけで先生の著書『楕円形の心』を読みました。ストーンと心の中に落ちた言葉が二つありました。一つは「一日一時間の静思」もう一つは「目下の急務はただ忍耐あるのみ」でした。本を読んだ後、心が落ち着き、焦りがなくなりました。そして、これが言葉の処方箋。今の私には必要な言葉と実感しました。本を読むきっかけを作ってくれた先輩、がん哲学外来花一輪カフェに感謝し、しばらくこの処方箋を胸に秘め、生活していこうと思います。

がん哲学外来コーディネーター講座に参加して

大友 由美子

7月6・7日のがん哲学外来コーディネーター養成講座に参加しました。精神看護専門看護師、遺伝医学の両先生の講演とグループワークがありました。グループワークのテーマは、「やり場のない思いにどう寄り添うか」。私のグループでは患者・家族の思いや医療者の思いの隙間をカフェが埋めるのではないかと。それには、それには、『寄り添いたい』という思いが大切だと話し合いました。ある一人が言った。「安心して話せるカフェがある。話していい仲間がいる。その仲間は寄り添いたいと思って待っていてくれる。」そんなカフェになるといいと思いながら、花一輪カフェがもうすでに、そんなカフェになっているのを感じる時があります。スタッフだけでなく、来て下さる方からも『寄り添いたい』思いを感じます。共に待っていてくださり本当にありがとうございます。今日もまた、一緒にお茶を飲みましょう。

続けることが使命、皆さんからいただく使命。

上田 由起子

まずは参加者全員立って円陣となり、前の人を肩を掛け声をかけながら叩き、笑いとしん縮をする事で緊張をほぐし、楽しい気持ちになってカフェがスタート。その時点ですでに、ドアを開けたときの不安な気持ちや重い心が半分以下になっているようにみえます。初めて会う人であっても、どこかに同じ苦しみ・つらさを味わっている、気を許せる仲間という安心感かと思う。こういう場所に居合わせた、ついさきほどまでは見知らぬ人との出会い。がん哲学外来カフェでの出会いは、まさにご縁。いつしかカフェに来ることがサークル活動に参加するかの如く、手帳に次回のカフェ予定を書き込む皆さん。がん患者さんの悩みはつきないのに、楽しかった、また次回。と言って笑顔で別れる。そんな皆さんの嘘のない表情にやる気とパワーをいつもいただく私。いつもあたたかく受け止めてくださりありがとうございます。これからも、スタッフと共に続けます。